

センター便り

江戸川区口腔保健センター

Newsletter

〒134-0013 東京都江戸川区江戸川5-14-4 Tel/03-5667-8020 Fax/03-5667-8022



センター事業報告と新事業

口腔保健センター運営実施委員会理事 金栗勝仁

江戸川区口腔保健センター「にこここ歯科診療所」は、様々な先生方のご尽力によって平成16年9月に開設して20年が経ちました。障害者と有病高齢者を歯科診療する施設で江戸川区が建設して歯科医師会が管理・運営をしています。開設当所より主に診療・摂食嚥下指導・口腔ケア研修事業を行ってまいりました。患者数も年間4000名を超えて順調に推移しております。

近年、口腔保健センターのニーズの高まりにより訪問歯科相談窓口・育成室摂食嚥下機能相

談・児童相談所歯科一時保護所健診・障害者施設発達支援センター歯科健診事業などを行っています。障害者施設発達支援センター健診事業は区立施設だけでなく、今年度は民間施設(7施設)も歯科健診口腔保健指導を行うこととなりました。各事業は協力医体制をとっております。

ご興味のある先生方は是非、協力医になっていただき、事業に参加していただけたらと存じます。センターまでご一報いただければ幸いです。

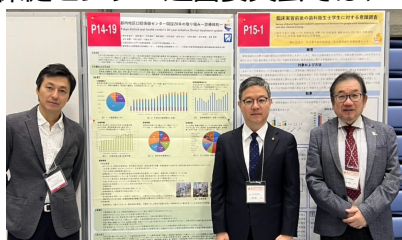
2024年度第41回日本障害者歯科学会 報告

口腔保健センター運営実施委員会委員長 福田喜則

令和6年12月12日(金)、13日(土)、14日(日)に沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにて第41回日本障害者歯科学会総会および学術大会が執り行われた。江戸川区歯科医師会からは、根本秀樹会長をはじめ、清水畑倫子口腔保健センター担当副会長、高木康正副会長、加藤大樹副会長、小野寺美香子専務、金栗勝仁担当理事、岡本和久同副委員長、竹内陽平同副委員長、古川隆彦副委員長、小鶴芽衣先生、佐藤センター室長、林センター非常勤歯科医、岩淵センター歯科衛生士、そして私と14名で参加した。また江戸川区からは長係長も出席を確認した。同学会は歯科学会の専門分科会の中でも会員数は多く、約5000人を超える学会に成長をしている。今回の参加人数は遠方沖縄にもかかわらず1200名を超えたようだ。

金曜日初日は認定医・認定衛生士研修会が開かれ、「医療法人社団かけはし」理事長の生田先生が「知っておきたい、てんかんの基礎知識」を講演された。同学会の認定医を会員が所得することは江戸川区口腔保健センターのこれからの発展に寄与するものと考えます。口腔保健センター運営委員会では、同学会の「障害者歯

科学会認定医」の取得を目的としたサポートも行っている。ぜひ興味のある方は問い合わせ



せてほしい。

土曜日2日目は開会式と社員総会から始まり、ダウン症のダンスグループによるダンスショーで幕が開かれた。学会の方は、多くの会場がキャパオーバーで聞きたい人があふれている。熱気にあふれ、皆並んで次の聞きたい講演を待つ。展示場にも企業展示ブースが設営されている。障害関係の企業も多く、普段目にしない情報もあり、勉強になる。アジアからの発表も多く、アジア障害者歯科の繋がりが昨今発展してきていることを垣間見た。ポスター発表会場は多くの演題がジャンルごとに掲示されていた。地域医療の分野には当センターからも2題の演題が発表されていた。今後も様々な事業の結果の報告を期待する。

日曜日3日目は昨年亡くなられた日本障害者歯科の立役者、上原進先生の追悼シンポジウムも有り、世界中から来た国際障害者歯科学会の来賓たちをくぎ付けにする進行だった。今年の障害者歯科学会は12月にもかかわらず、軽装で臨んでも暖かい学会だった。観光はできなかったが、宿のプールも気持ちよく、豚も泡盛もおいしくとても素晴らしい学会参加だった。

2025は大阪だ。



2024年度 第52回歯科麻醉学会 報告

口腔保健センター運営実施委員会副委員長 小野寺隆昭

第52回歯科麻醉学会総会・学術集会が令和6年10月25日(金)～10月27日(日)まで朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで行われました。江戸川区歯科医師会からは佐藤室長と私の2名で参加致しました。

今回の学会テーマは『笑顔を支える歯科学、Dentistry deserves patient smile』です。人が笑顔で暮らす日常生活に歯科医療は重要な役割を果たしており、その安全を支えるのが歯科麻醉学です。そこで本学術集会では様々な方面から歯科麻醉学の果たすべき役割を再考し、未来へ導く動線を創造することを目指します。

歯科治療のイメージは『痛い・怖い』ですが、歯科麻醉学はそのイメージに対応する科学としても発展してきました。

本学術集会ではその1つとして新しい医療機器「アネスパッチ」を使用した症例で、長さ250～300μm、数百本の微細な針が歯肉の上皮部(薬物透過バリア)表面に圧迫することにより、迅速な表面麻酔の到達を実現でき、浸潤麻酔の痛みを極力抑えることができるようになります。

そして去年も書きましたが、新しい全身麻酔薬「レミマゾラム」も脳梗塞の既往のある患者さ

んや心因性てんかん発作の患者さんなど多くの症例で、安定して使用できることが発表されていました。

また、歯科だけでなく医科分野との関わりのポスターや発表が多く見られました。その1つに顎変形症手術における咽頭スペースの評価で気道分析を行う発表が見られました。

また今回初めての試みでPICC(末梢挿入型中心静脈カテーテル)、エコー、DAM(気道確保困難症例の管理)などのハンズオンセミナーが行われていました。

口腔保健センターでは歯科恐怖症の患者さんや高血圧症や心疾患などの有病者やてんかん発作などを有する患者さんなど色々なケースの患者さんが来院されます。そのすべての患者さんに「痛くなく、怖くなく、安全に」歯科治療を提供できるように日々精進が必要だと実感した大会でした。



新入職員ご挨拶

歯科衛生士 鈴木花帆

令和6年10月より歯科衛生士として水曜日、金曜日、土曜日に勤務させていただきます。鈴木花帆と申します。

新卒から19年間一般歯科に従事してきました。一般歯科では健康の入口として口腔ケアに力をいれ、患者様一人ひとりに合わせたケアやアドバイスを行ってきました。障害者歯科は初めてで学ぶことが多いと実感しております。しかし、患者様やご家族に安心して治療を受けていただけるようコミュニケーションを大切にしながら丁寧に取り組んでいきたいと考えています。先輩衛生士さんのご指導のもと精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。



左から海津、鈴木衛生士

歯科衛生士 海津早苗

昨年10月より入職致しました、海津早苗と申します。歯科衛生士としてここ10年ほど障害者歯科に携わってきました。

幾つかのご縁が重なり、この江戸川区で勤務することになりました。これからも患者さんの個々のニーズに合った診療に尽力したいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

口腔外科指導医 坐間学

2025年1月より口腔外科担当として、月1回火曜日にお世話になることになりました坐間学です。私は大学病院の口腔外科で長らく働いておりました。以前にも障害者歯科に携わっていた時期があります。センターでは埋まっている親知らずや、有病者の方の抜歯がなかなか難しい現状があると話を聞き、口腔外科医としてお力になればと思い、お話をお受けさせていただきました。今後どうぞよろしくお願いいたします。

